編集後記

・平城宮跡は、考古学的遺跡としてのその傑出した内容の由のみならず、日本における大規模遺跡の調査研究と保存活用の方途を示した遺跡として極めて重要であることはここに今さら強調するべくもない。数多くの先人たちの長い取組の中で「遺跡学」という着想をもたらしたこの遺跡に深く関わってきた奈文研に日本遺跡学会の事務局が置かれている所以でもある。日本遺跡学会では、平成20年度大会において「平城宮跡の国営公園化と奈良のまちづくり」を開催したのに引き続き、この度は、元明天皇が藤原京から平城京へ遷都した和銅３年（710）から数えて1300年を経た平成22年（2010）に１年間の会期をもって開催された〈平城遷都1300年祭〉を主な事例として平成22年度大会を開催した。
・本学会平成16年年度大会に報告された７月の福井豪雨のほか、同年10月の中越地震での被災を含め、本誌第２号においては「文化財と災害」を特集した。この度の東北地方太平洋沖地震とその余震をはじめ、台風12号による甚大な被害は、被災地のみならず、私たちの暮らし全体に大きな影響を及ぼし、今年度およそすべての学会等における大会や刊行物において、被害の実態把握とその対応、そして、今後の取組の方向性などが活発に議論されている。本誌今号においても小特集「東日本大震災と文化遺産」を企画したが、この度の未曽有の大災害においては、地域における文化遺産保護を担う行政機構には根本から機能不全に陥っているところもある中、これまで私たちが経験してきた文化財災害とはまったく異質である事態を踏まえ、第９号においては、地域における災害と遺産との関係について、多角的な観点から検討していきたい。依頼原稿に加え、会員諸氏からもこの度の大災害に関わることのみならず、広く災害と遺産についてのご寄稿を求めたいので、平成24年（2012）４月までを目途にご連絡いただけると幸いである。

・第８号では、平成22年度大会報告である「史跡におけるアニバーサリー・イベントの意義と在り方　～平城遷都1300年祭を中心として～」（特集１）のほか、「受け継がれる祈りの遺産」（特集２）、「ソンマ・ヴェスヴィアーナにおける遺跡調査の10年」（特集３）、「東日本大震災と文化遺産」（小特集）の特集企画を設けた。
・特集１「史跡におけるアニバーサリー・イベントの意義と在り方　～平城遷都1300年祭を中心として～」は、平城宮跡資料館講堂で開催された平成22年度大会の第１日（平成22年11月20日）における２つの記念講演、第２日（平成22年11月21日）の基調講演と３つの事例報告、そして、パネル・ディスカッションの記録を掲載した。この企画については、今期より学会誌編集委員となった青木達司が大会運営から本誌掲載までを担当した。
・特集２「受け継がれる祈りの遺産」は、学会誌編集委員の平澤毅が企画立案と取り纏めを担当したものである。昨年末からの企画準備において本誌編集委員のほか、関係各方面に打診・相談の結果、12編をご寄稿いただくことができた。
・特集３「ソンマ・ヴェスヴィアーナにおける遺跡調査の10年」は、極めて数多くの人々が関わるこの大プロジェクトのすべてをプロデュースする青柳正規先生と、研究協議や発掘現場のディレクターたる松山聡氏とにご相談させていただきながら、その大筋を支えてきたテーマ10本に絞ってご寄稿いただくこととして、平澤が担当して取り纏めた。なお、本特集については、グラビアページにカラー写真を掲載したので、調査現場の雰囲気を感じていただければと思う。
・小特集「東日本大震災と文化遺産」は、その動向の一端でも共有すべく、緊急的に企画したものである。したがって、このテーマについては、関連する事項を広く含め、次号において深めていくこととしている。
・投稿を募集した「研究論文」と「研究ノート」については、それぞれの投稿の主題に専門の査読者による校閲及び編集員に拠る修正等の適否の確認を経て、「研究ノート」１本につき掲載を決定した。
・「冒頭グラビア」、「遺跡の現場から」には、遺跡をはじめとするそれぞれの立場から様々な情報等を発信することとして６本のご寄稿をいただいた。依頼に際しては、特に上記特集との関連に重点を置いた。
・「行政情報」改め、今号より「学界・行政情報」とし、２本の記事をご寄稿いただいた。
・日本遺跡学会は、平成15年（2003）２月１日の設立から、来年、平成24年（2012）１月31日で満10周年を迎える。日本遺跡学会誌『遺跡学研究』も、本学会員以外にも普及しつつあることを踏まえ、また、会員諸氏におかれても、本誌においていつでも参照できるよう、「入会のご案内」として、「日本遺跡学会設立趣意書」と「日本遺跡学会会則」、そして、設立総会以来の大会等の開催実績を、今号より掲載することとした。
・表紙のデザイン／構成には中村一郎氏（奈良文化財研究所）のご協力を得た。
・本誌の編集・校正等の総括については、平澤毅・青木達司が担当し、各編集委員と連絡・協議の上、事務局の北野陽子・山下侑子の両氏に諸作業・事務連絡等の協力を得た。

本誌の構成・編集については、編集委員が幹事会及び運営委員会において各種企画の検討状況などを随時報告し、協議を行った結果を踏まえて進めた。関係各位には多大なご理解とご協力を賜わったこと、厚く御礼申し上げる次第である。

学会誌編集委員　　青木達司・粟野　隆・坂井秀弥・清水重敦・平澤　毅・増渕　徹（五十音順）

遺跡学研究　第８号　2011

発行日　2011年11月20日
発行者　日本遺跡学会
〒630-8577　奈良県奈良市二条町２－９－１
奈良文化財研究所　文化遺産部　景観研究室内
TEL　0743-30-6816　FAX　0742-30-6815
E-mail　iseki-g@nabunken.go.jp
印刷所　能登印刷株式会社